



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

yamaguchi Japanese Red Cross Society

赤十字やまぐち

2014
Autumn
秋号

発行／日本赤十字社山口県支部 〒753-0094 山口県山口市野田 172-5 TEL.083-922-0102 <http://www.yamaguchi.jrc.or.jp>



みんなで心肺蘇生、友達同士で教え合う姿も
(山口市 野田学園幼稚園)



土砂災害の被災者の“心のケア”に当たる救護班看護師
(広島市 三入小学校)



豪雨災害ではボランティアセンターの
運営・活動を支援 (岩国市)



青少年赤十字加盟高校では5月、
県下一斉ボランタリー・サービス
(美祢市 美祢高等学校)

支部長あいさつ

県民の皆様へ

このたび、日本赤十字社山口県支部の第32代支部長に就任いたしました村岡嗣政です。よろしくお願いします。

私は、知事就任にあたり、「5つの政策の柱」の一つに県民の皆様「一人ひとりのいのち、安心を守る」を掲げ、防災・減災、医療・介護など県民の皆様の暮らしの安心・安全を守る取り組みを進めています。

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命のもと、災害救護活動や国際活動、医療・血液事業、救急法等の講習普及、赤十字奉仕団や青少年赤十字の活動の推進など広範な事業活動を展開していますが、山口県支部・施設においても、人道を実現するため、社員・県民の皆様の信頼と期待に応えられるよう、これらを適切に進めて行きたいと考えています。

先に県東部での豪雨災害、広島市においても豪雨による甚大な土砂災害が発生しました。近年、気象変動による災害の大規模化や頻発化の傾向があり、南海トラフ等の大規模地震の発生も危惧されています。また、急速に進む人口減少や高齢化の中で、赤十字に対するニーズは今後益々、増大し多様化していくものと思われます。

日本赤十字社山口県支部としましては、「災害からいのちを守る日本赤十字社」として、事前の備えから災害後の対策まで、災害全般を対象とした救護体制の充実強化や赤十字ボランティアの活性化、県民の皆様を対象とした防災・減災のための各種講習実施などに取り組むとともに、世界最大の人道的ネットワークの一員として、社員・県民の皆様の様々な要請にもお応えしたいと考えています。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



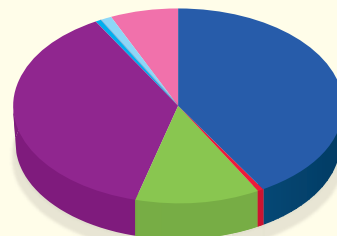
日本赤十字社
山口県支部長

村岡 嗣政

平成25年度決算報告から

歳入:539,829,794円

6月11日、山口市で開催された「平成26年度日本赤十字社山口県支部評議員会」において、平成25年度の事業報告並びに一般会計・各特別会計の歳入歳出決算について、それぞれ審議・承認されました。



■ 社資収入	223,982,126円
■ 補助金および交付金収入	3,401,000円
■ 災害義援金預り金収入	66,280,471円
■ 繰入金収入	201,521,991円
■ 貸付金償還金収入	3,000,000円
■ 資産収入	17,520円
■ 雑収入	6,353,465円
■ 前年度繰越金	35,273,221円

歳出:539,829,794円

皆様の善意により、山口県支部の事業・活動を支えていただきました！

災害からいのちを守る

- ・災害救護活動のため：28,186,166円
- ・東日本大震災義援金として：66,280,471円



平成25年7月の大雨災害で、被災された地域の各家庭を訪問し、医師、看護師により熱中症予防を呼びかけ、健康調査を実施しました。



東日本大震災の義援金は、多くの皆様方からお寄せいただいています。宇部日報社様からは、発災後継続的に各方面からの義援金を取りまとめていただき、累計3,522件、342,331,859円をお寄せいただいています。(平成26年8月末までの金額)なお、東日本大震災義援金全体の報告は本誌4ページをご覧ください。

「ボランティアの活動」を支援

- ・奉仕団活動・青少年赤十字のため：16,839,630円



地域の安全・安心のために、災害救護用炊飯袋(ハイゼックス)を使用した非常食炊出し研修を実施しました。



高校生が大雨災害の被災地に入り、土砂の撤去や家屋の清掃等のボランティア活動を行いました。

未来を担う「赤十字人」を育む

- ・救護看護師養成のため：8,400,000円
- ・赤十字思想普及のため：23,064,373円



将来国の内外を問わず人道の精神で人々の福祉に貢献できるよう、看護の知識・技術、災害看護等の教育を行っています。



赤十字紙芝居コンクールを実施し、入賞作品をもとに作成した紙芝居を上演することで、広く皆様へ赤十字の思いやりの心を普及しています。

いのちを救いたい気持ちを行動にするための各種講習

- ・救急法等の講習普及のため：17,624,126円

救急法



健康生活支援講習



水上安全法



幼児安全法



家庭あんま術



けがや病気に対する正しい手当の知識と技術を習得し、いざという時に「命を救いたい！」の思いを行動にできる人等を育てるために、県内各地で各種講習会を開催しています。

25年度	講習回数計	442回
	受講者数計	14,678名

国際救護活動・本社の全国的事業のため	35,985,654円
医療・社会福祉活動のため	210,146,775円
血液事業推進のため	243,503円
市町における赤十字事業のため	38,481,166円
広報活動など赤十字社業振興のため	12,276,729円
施設整備管理のため	1,250,051円
山口県支部事業運営のため	36,160,750円
災害等資金積立のため	21,553,694円
償還金支出のため	3,000,000円
翌年度繰越金	20,336,706円

平成26年度(4～8月)も色々な事業を進めています!!

フレッシュ職員、赤十字の心で力強くスタート ～新規採用職員研修～

4月2日、今年度採用された山口県内の赤十字施設職員56名を対象に、「新規採用職員研修会」を開催しました。

日本赤十字社の組織・事業の概要や、業務遂行のための基礎知識・技術、また、赤十字職員としての心構え等を、グループワークなどを通じて学び、参加者は赤十字人としての気持ち新たにスタートを切りました。



被災された方々のために、少しでも力に ～岩国市、和木町の大雨災害～



8月6日に岩国市と和木町で発生した大雨災害では、被災された方々へ救援物資(毛布:250枚、緊急セット(携帯ラジオ・歯ブラシ等の日用品):12セット、安眠セット(簡易マットレス、アイマスク等):30セット、バスタオル:120枚)の配布を行い、山口県赤十字防災奉仕団、岩国災害救護奉仕団、山口県青年赤十字奉仕団等のボランティアにより、災害ボランティアセンターの運営支援や、被災家屋からの土砂の撤去や家屋の清掃等を行い、被災者の方々が少しでも早く日常の生活に戻ってもらえるようにと願いました。

広島市大雨災害へ救護班派遣 ～避難所を巡回して医療救護活動～

8月19日からの豪雨により広島市では甚大な土砂災害が発生しました。日赤山口県支部救護班(山口赤十字病院:医師1名、看護師3名、主事2名、山口県支部:連絡調整員2名)は、8月26日に広島へ入り、27日・28日の2日間、広島市安佐北区・南区の避難所となった大林、三入東、三入、八木、可部の5つの小学校を巡回し、救護活動を実施しました。

主な活動は、血圧測定や健康相談、こころのケア等。避難生活が続く被災者の方々は皆疲労され、今後への不安を抱えておられましたが、短時間のふれあいを通じ、一日も早く普通の生活を取り戻されるようにと祈りました。



JRC(青少年赤十字)リーダーシップ・トレーニングセンター



山口県内で、毎年夏休み時期に合わせて行う青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(通称:トレセン)を、今年も7月から8月にかけて実施しました。

昨年度は県内で発生した大雨災害により、研修施設が被災し、小・中学校は開催中止、高等学校は短縮日程での開催となりました。本年のトレセンは、県内の青少年赤十字加盟校から総勢60名のメンバーが集結。

日頃は、先生や家族、周りの人から「あれをしなさい、これをしたほうがいいよ」などと言われ、「言われたからする、言われたことだけをする」ことになりがちな子どもたち(だけではなく、「大人も」かもしれません...)が、期間中はスタッフからの指示や号令は殆どなく、指定された掲示板に張り出される内容を確認しながら生活をします。小・中学校は3日間、高等学校は4日間のトレセンですが、参加したメンバーの表情は見る見る内に変わっていきます。最終日には一人ひとりが青少年赤十字の実践目標である「気づき・考え・実行する」を意識して行動できるようになり、自主自立の精神を磨くことができました。

あるメンバーは「講義で学んだ赤十字の歴史と精神や、リーダーはどうあるべきかについて、学校へ戻ってから皆に伝えます!」と熱く意気込みを聞かせてくれました。リーダーシップ発揮への自覚が芽生えた頼もしい背中を、スタッフ一同大変嬉しく見送りました。

開催日程

小学校:7/29(火)～31(木)
中学校:8/6(水)～8/8(金)
高等学校:8/6(水)～8/8(金)

※高等学校は台風のため、4日間の日程を短縮しました。

各赤十字奉仕団も県内各地で活動しています

山口県赤十字奉仕団
(地域奉仕団)



山口県青少年赤十字
賛助奉仕団



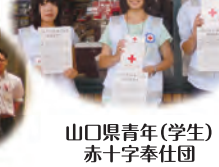
山口県赤十字
安全奉仕団



山口県赤十字
防災奉仕団



山口県青年(学生)
赤十字奉仕団



山口県赤十字
アマチュア無線奉仕団





社資で日本赤十字社山口県支部の事業活動を支えたい!

社資ってなあに?

社資とは、「社費」と「寄付金」をあわせた日本赤十字社の活動資金です。

「社費」は、社員から年額500円以上で納入される資金、「寄付金」は、どなたでもいくらからでもご協力いただけます。

社資の納入方法

町内会・自治会等の方々や赤十字ボランティアを通じた納入のほか以下の方法でご協力いただけます。

①郵便局からの振込みでの納入…お近くの郵便局からお振込みいただけます

【口座番号】01590-3-4076 【加入者名】日本赤十字社山口県支部

※上記口座番号は社資専用口座です。お間違えのないようよろしくお願いいたします。

②口座振替による納入

預金口座振替(自動引き落とし)により毎年継続して社費を納入していただけます。

③インターネットでの納入…インターネットで簡単に社資を納入していただけます。

④お近くの赤十字窓口での納入 ⑤慶弔金のお返し ⑥遺贈による寄付

※②、③は一回2,000円〜ご協力いただけます。詳細については、日本赤十字社本社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)をご覧ください。

※日赤に寄せられました社資には税制上の優遇措置があります。

■ご存知ですか…?

近年、大切な方を亡くされた方などから、「故人の遺産を社会のために寄付したい」等のご相談や尊いお申し出が増えています。平成27年1月1日から、相続税の基礎控除額の減少や最高税率の引き上げなどにより、相続税が一部増税となりますので、この機会にご寄付(遺贈)による社会貢献や遺言の必要性など、相続のあり方について一度考えてみられませんか。

○基礎控除額が40%減少し、相続税の課税対象者が大幅に増加します

○税率が見直され最高税率が55%になります。また課税標準も細分化されます

○赤十字へのご寄付(遺贈)には、税制上の優遇措置や表彰制度があります

ご自分で築かれた財産をご自分の意思により円満な相続につなげるためには、遺言が必要です。

○相続人以外でお世話になった方に財産を残されたい場合

○会社、医院、農業等でご長男に円満に事業承継されたい場合

○お子様のおられないご夫婦で、夫婦間だけでの相続を考えておられる場合

○相続人がおられず、財産を寄付して社会に貢献したいと考えておられる場合等

日本赤十字社(本社)では、遺言や遺産整理の業務に関して金融機関と協定を締結しています。

県内のお問い合わせ先は

三井住友信託銀行山口防府支店 TEL0120-0835-22

三井住友銀行下関支店 TEL083-222-4087

※赤十字サポーターの西京銀行でも関連のご相談で、業務提携先の紹介が受けられます。 TEL0120-556-329



赤十字の活動資金や 義援金へのご協力、 ありがとうございます。



++++ 高額寄付者のご紹介 +++++

日本赤十字社の活動資金にご協力いただいた方をご紹介します

平成26年2月から平成26年7月末までの当支部受付分から

100 万円以上

2 名

10 万円以上

株式会社コムズコーポレーション様(下関市) 末廣 泰生様(山口市)

平野 計夫様(山陽小野田市) 山本 宗男様(岩国市)

ほか7名

氏名等の掲載について、ご了承をいただいた方のみを掲載しています。

東日本大震災義援金

東日本大震災義援金について受付・配分状況等は下記のとおりです

<受付状況>

山口県支部で受け付けた義援金は、14億523万6,119円(平成26年7月31日末現在)。これを含め、日本赤十字社全体で受け付けた義援金は、3,330億4,771万6,978円(平成26年8月15日現在)です。

<配分状況>

義援金の配分は、被災された方々の実情をもっとも把握している被災地の行政が窓口となっています。

東日本大震災では、被災地の行政自体も大きなダメージを受けたため、被災者の実情把握等に時間がかかりました。

ご心配をおかけしましたが、現在は、被災された自治体を通じ、順次、被災者にお届けできています。

受付総額のうち、都道府県(15都道府県)、市町村、被災者に配分された額は、以下のとおりです。

都道府県 約3,732億円 市町村 約3,640億円 被災者 約3,582億円

※これらの金額は、平成26年8月15日現在の日本赤十字社並びに中央共同募金会からの送金合計です。

なお、15都道府県対象の義援金の受け付けは、平成26年3月31日をもって終了し、全額を被災都道府県へ送金しました。

日本赤十字社では、平成27年3月31日まで引き続き東日本大震災義援金の受け付けを行い、岩手県・宮城県・福島県・茨城県の被災者にお届けします。

赤十字サポーターの支援の輪も広がっています

「赤十字サポーター認定制度」は、日本赤十字社山口県支部が人道の理念のもとに実施している各種の事業活動を、「活動資金」や「それぞれ営まれる事業に関連した支援協力内容」によりサポートしていただける企業団体等を、「赤十字サポーター」として認定する制度です。

2013年8月の制度開始から、本年新たに2団体が認定され、計4団体がサポーターとして随時ご支援いただいています。

第3号

株式会社
三宅商事様



第4号

生活協同組合
コープ
やまぐち様



山口県内の赤十字施設は今

総合病院山口赤十字病院

総合病院山口赤十字病院

当院は、県央部に位置し、県内最大の二次救急医療圏における救急医療を含む急性期医療を主体とした基幹病院としての機能を担っています。地域周産期母子医療センターや小児救急医療拠点病院、地域がん診療連携拠点病院などの特徴的な機能も備え、各分野において、理念にも掲げている“あたたかな信頼のおける医療”を提供しています。

また、医療の提供だけでなく、“地域”の中核病院として、地域の方々の健康増進・健康力強化を目的とした活動にも力を入れています。その1つとして、院内組織「知っちょる会」では、公開講座の開催を通して、医療に関する様々な情報提供を行い、予防医療への貢献にも取り組んでいます。

今年度も開催を予定していますので、皆様お誘いあわせの上是非ご参加ください。

(診療科目) 内科、消化器科、循環器内科、神経内科、精神科、小児科、外科、乳線外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、放射線科、リハビリテーション科、歯科・口腔外科、麻酔科、(緩和ケア科)
(病床) 病床数475床



▲昨年実施 知っちょる会の様子

〒753-8519
山口県山口市八幡馬場 53 番地の 1
TEL. 083-923-0111 FAX. 083-925-1474
<http://www.yamaguchi-redcross.jp/>

小野田赤十字病院



小野田赤十字病院

当院は、急性期医療を行う一般病棟、慢性期医療を行う療養病棟、そして老人保健施設や在宅介護支援センターを併設し、保健・医療・福祉のトータル機能で地域の方々のニーズに対応しています。

在宅介護支援センターでは、居宅介護支援事業と介護予防事業(市の委託業務)の2つの業務を行っています。

業務内容は要介護認定の申請代行や介護サービス計画の立案など多岐に渡ります。また、介護予防事業の一環として地域で自立した生活を送っている方々の実態把握も行っています。

平成7年に在宅介護支援センターを受託して以来、地域に密着した在宅介護支援を展開してきました。介護保険創設時から、一貫して人々のニーズに沿った公平中立な支援活動を行っています。

山口県赤十字血液センター
総合病院山口赤十字病院



小野田赤十字病院

〒756-0889
山口県山陽小野田市大字小野田 3700 番地
TEL. 0836-88-0221 FAX. 0836-88-2733
<http://www.onoda-redcross-hosp.jp/>

(診療科目)
内科、消化器内科、循環器内科、神経科、外科、整形外科、肛門科、皮膚科、眼科、リハビリテーション科
(病床) 一般病床40床、療養病床92床
(老人保健施設) 入所定員100名

山口県赤十字血液センター

山口県赤十字血液センター

「血液のこと」知っていますか？

当センターでは、職場体験学習、施設見学等を積極的に受け入れています。

中・高校生を対象とした職場体験学習では、血液・献血の基礎知識、血液センターの役割などを学べるほか、実際に「献血会場の受付業務」、また「運搬車両に同乗しての血液製剤配送業務」など、当センター職員が日々行う仕事をそのまま体験していただくカリキュラムを用意しています。

施設見学については、どなたでも受け入れており、事前に相談の上、希望に沿った見学内容、時間割を検討し、お迎えしています。

また、センター職員が各学校へ出向いて開催する「献血出前講座」、「献血セミナー」も随時受付けていますので、ご希望がありましたら、お気軽にお問い合わせください。



〒753-8534
山口県山口市野田 172-5
TEL. 083-922-6866 FAX. 083-922-7073
フリーダイヤル 0120-456-122
<http://www.yamaguchi.bc.jrc.or.jp/>

平成26年度 後半の予定

● 平成26年度中国四国各県支部合同災害救護訓練 ●

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康・尊厳を守る」という使命のもと、災害救護を重要な活動の一つとして取り組んでいます。

中国四国各県支部では、隔年で、災害時に連携しながら迅速かつ適切に対応できるよう、合同で災害救護訓練を実施しており、今年度は山口県支部が引き受けて11月8日(土)12時00～14時30分、山口きらら博記念公園を会場に行います。見学は自由ですので、この機会に是非、ご覧ください。



平成24年度愛媛県での合同訓練での救護活動

● 第2回山口県赤十字救急法競技大会 ●

赤十字救急法競技大会は、県内では昨年度初めて開催し、100名を超える参加者がありました。大会後には次回開催を望む声も多く、今年度も引き続き、県民の日常生活における安全意識を高め、事故や災害時において相互に助け合い、行動できるようになることを目的として、第2回大会を下記の日程で開催します！

日時 平成26年12月14日(日)12時～

会場 周南市新南陽ふれあいセンター（周南市新南陽幸町2-1）

受付期間 平成26年9月1日(月)～11月14日(金)まで



応急手当の部



心肺蘇生の部



第一回大会受賞チーム

～県民の皆様方と共に赤十字について考え、今後も一層支援していきたい…そんな思いを込めて～

● 山口県日赤紺綬有功会主催 はがき随筆・はがき絵コンクール作品募集 ●

○募集期間 平成26年10月1日(水)～平成27年1月30日(金)必着

○内容 「いのちの大切さ」をテーマに、はがき随筆部門・はがき絵部門の2つの部門で募集を行います。

①はがき随筆部門・・・「人間のいのちの大切さ」をテーマに、250字以内でお書きください。

②はがき絵部門・・・「いのちの大切さ」からあなたがイメージされることを、はがき絵に表現してください。

入賞作品は、巡回展示等を通じて、広く県民の皆様へ制作者の思いを共有し、共感していただくことで、「いのちの大切さ」を改めて感じとっていただく予定にしています。

その他詳細はホームページ(<http://www.yamaguchi.jrc.or.jp>)をご覧ください。日本赤十字社山口県支部までお問い合わせください。

★山口県日赤紺綬有功会とは

赤十字の人道・博愛の精神と世界に広がる人道的活動に共鳴し、社労功労(高額寄付など)または業務功労(複数回献血など)による「有功章受章者」の有志の方々によって、昭和40年に「山口県日赤紺綬有功会」が設立されました。平成26年9月現在、個人・法人合わせて91名の会員が活動されています。



～日本赤十字社公式マスコットキャラクター～

平成26年5月8日、赤十字創始者のアンリー・デュナンの生誕にちなんで制定された世界赤十字デーに、日本赤十字社の公式マスコットキャラクター「ハートラちゃん」が誕生しました。「苦しんでいる人を救いたい」という強い思いで、ハートランドの森からやってきました。おでこの赤十字標章、ハート型の耳、真っ白な体に赤いしま模様がチャームポイント♪これからどんどん活躍しますので、どうぞよろしくお願いします！



日本赤十字社 山口県支部

〒753-0094 山口県山口市野田172-5 TEL.083-922-0102 <http://www.yamaguchi.jrc.or.jp>